

いわて 復興の歩み

2011.3-2023.3 東日本大震災津波からの復興の記録



東日本大震災津波伝承館と
高田松原津波復興祈念公園



三陸沿岸道路 全線開通
提供:三陸国道事務所



三陸花火大会



令和5年 5月

岩手県

三陸鉄道リアス線 織笠駅



宮古市遊覧船 宮古うみねこ丸

目次 CONTENTS

はじめに	1
1 概況・被害状況と復興推進の基本方向	2
2 復興の状況	4
3 これまでの主な取組	6
(1) 安全の確保	6
① 防災のまちづくり	6
② 交通ネットワーク	7
(2) 暮らしの再建	9
③ 生活・雇用	9
④ 保健・医療・福祉	10
⑤ 地域コミュニティ	12
⑥ 教育・文化・スポーツ	13
(3) なりわいの再生	16
⑦ 水産業・農林業	16
⑧ 商工業・観光	18
(4) 未来のための伝承・発信	20
(5) 全国・海外からの応援	24
4 これまでの復興の歩み	26
復興支援ありがとう／いわて三陸の紹介	

はじめに

12年前の平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災津波により、岩手県では、沿岸部を中心に余震や災害関連死を含め5,145名の尊い命が奪われました。今なお1,110名の方々が行方不明となっています。

改めて犠牲になられた方々の御冥福をお祈りいたします。また、被害を受けた皆様に心からお見舞い申し上げます。

岩手県は、東日本大震災津波からの復興に当たり、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指す姿とし、県民一丸となって復興に取り組んできました。この間、全国や海外から多くの御支援をいただき、国内外との絆に支えられてきました。被災された方々、御支援いただいた皆様の御尽力に敬意を表し、改めて感謝申し上げます。

これまでの12年間で、復興道路等が完成し、県土の縦軸、横軸を構成する新たな道路ネットワークが形成されたほか、防潮堤などの津波防災施設の整備が進み、その多くが完成しました。

今後、残る社会資本整備を早期に進め、被災者のこころのケアや新たなコミュニティ形成の支援、主要魚種の不漁対策や水産業の担い手確保、商工業の販路回復や従業員の確保など、被災地の実情を踏まえた対策に取り組み、被災者一人ひとりに寄り添いながら、「誰一人取り残さない」という理念の下、三陸のビルド・バック・ベター(よりよい復興)を進めていきます。

また、「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」の趣旨にのっとり、東日本大震災津波伝承館を拠点とした、震災と復興の伝承と発信を継続し、国内外の防災力向上に貢献することを目指すとともに、将来発生が予想される「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」に対しても、過去の災害の教訓を生かしながら、市町村と連携して、更なる津波防災対策に取り組んでいきます。

岩手県は、令和5年3月に、「いわて県民計画(2019～2028)」第2期アクションプラン「復興推進プラン(令和5年度～令和8年度)」を策定しました。本プランの推進により、引き続き、あらゆる世代が希望を持っていきいきと暮らし、将来にわたって持続可能な新しい三陸地域の創造を目指していきますので、皆様からのこれまでと変わらぬ御支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、この小冊子により、岩手県の復興の状況について理解を深めていただくとともに、日本全国、世界中の皆様が様々な自然災害に立ち向かう際の防災力向上に広く御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

令和5年5月11日
岩手県知事



達増拓也

概況・被害状況と復興推進の基本方向

東日本大震災津波の概況 (岩手県災害対策本部調べ)

▶名称(発生日時) 東日本大震災津波(平成23年3月11日(金)14時46分頃)
 ※地震による震災の名称について、政府は「東日本大震災」としていますが、岩手県では「東日本大震災津波」と表記することとしています。
 ▶震源地 三陸沖・牡鹿半島の東南東約130km付近(北緯38°06.2' / 東経142°51.6')
 ▶震源の深さ・規模 24km・マグニチュード9.0(モーメントマグニチュード)
 ▶本県の最大震度 震度6弱:大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町
 ▶津波の最大波 [宮古]11日15時26分 8.5m以上 [釜石]11日15時21分 4.2m以上 [大船渡]11日15時18分 8.0m以上 [久慈港]8.6m(推計値)

岩手県における被害状況

痕跡高・死者数・行方不明者数・家屋倒壊数
(令和5年3月31日現在)

洋野町 痕跡高…洋野・久慈湾12.0m
家屋倒壊数 …… 26棟

久慈市 痕跡高…久慈湾13.7m
死者数…3人 / 行方不明者数…2人
家屋倒壊数 …… 278棟
関連余震による死者数 …… 1人

岩泉町 痕跡高…岩泉海岸20.2m
死者数… 10人
家屋倒壊数 …… 200棟

大槌町 痕跡高…大槌湾15.1m
死者数… 856人 / 行方不明者数 ……416人
家屋倒壊数 …… 4,167棟

釜石市 痕跡高…両石湾22.6m
死者数… 994人 / 行方不明者数 ……152人
家屋倒壊数 …… 3,656棟

内陸部
死者数 …… 34人
行方不明者数 …… 5人
家屋倒壊数 …… 1,846棟

本県全体
死者数 …… 5,145人
行方不明者数 …… 1,110人
家屋倒壊数 …… 26,079棟

※死者数は、直接死(岩手県警調べ)及び関連死(岩手県復興防災部調べ)。
 ※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数。
 ※痕跡高は、堤防付近での測定値(「岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定について」による)。

岩手県

野田村 痕跡高…野田湾21.4m
死者数… 39人
家屋倒壊数 …… 479棟

普代村 痕跡高…普代海岸18.4m
行方不明者数 …… 1人

田野畑村 痕跡高…田野畑海岸23.0m
死者数… 17人 / 行方不明者数 ……15人
家屋倒壊数 …… 270棟

宮古市 痕跡高…重茂海岸21.8m
死者数… 475人 / 行方不明者数 ……94人
家屋倒壊数 …… 4,005棟

山田町 痕跡高…船越湾19.0m
死者数… 687人 / 行方不明者数 ……144人
家屋倒壊数 …… 3,167棟

大船渡市 痕跡高…綾里湾23.8m
死者数… 423人 / 行方不明者数 ……79人
家屋倒壊数 …… 3,938棟

陸前高田市 痕跡高…広田湾18.3m
死者数… 1,606人 / 行方不明者数 ……202人
家屋倒壊数 …… 4,047棟



○産業被害額 (平成23年11月25日現在)

●農林業	984億円
●水産業、漁港	5,649億円
●商工業	1,335億円
●観光業(宿泊施設)	326億円
●合計	8,294億円

○公共土木施設被害額 (平成23年7月25日現在)

●河川、海岸、道路等施設	1,723億円
●公園施設	405億円
●港湾関係施設	445億円
●合計	2,573億円

○津波浸水範囲の土地利用構成率

田	その他の農用地	森林	建物用地
17%	4%	9%	34%

(平成23年4月18日国土地理院「津波浸水範囲の土地利用別面積について」による)

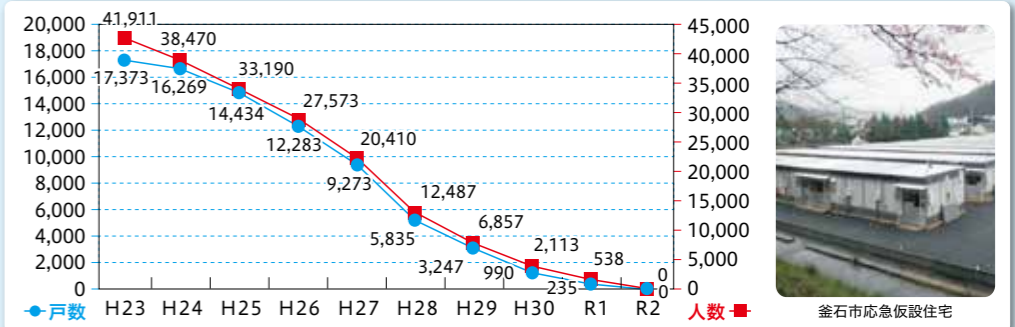
○推定資本ストック被害額・被害率

(単位:10億円)

	推定資本ストック A	推定資本ストック被害額					被害率 B/A	GDP値 C	被害額がGDPに占める割合 B/C
		生活・社会インフラ	住宅	製造業	その他	合計 B			
岩手県	26,369	457	22	64	211	754	2.9%	4,255	1.0年分
内陸部	26,369	457	22	64	211	754	2.9%		
沿岸部	7,449	1,943	607	191	781	3,522	47.3%		
合計	33,818	2,400	629	255	992	4,276	12.6%		

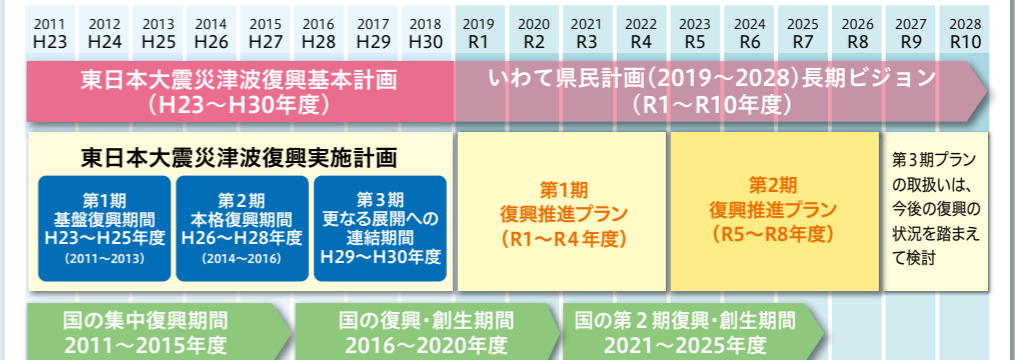
※推定資本ストック被害額及び被害率については、株式会社日本政策投資銀行推計(平成23年4月28日)
 ※GDP値は、「平成21年度の県経済計算について」(平成24年2月29日 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部)による

○応急仮設住宅等への入居状況 (令和3年3月31日現在)



いわて県民計画(2019~2028)における復興推進の基本方向

岩手県では、今回の震災を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、平成23年(2011年)8月11日に計画期間を8年間とする「復興計画」を策定し、復興の取組を進めてきました。被災地においては引き続き中長期的に取り組むべき課題もあることから、令和元年度以降も、県の総合計画である「いわて県民計画(2019~2028)」において、復興を県の最重要課題として位置付け、被災者一人ひとりの復興が成し遂げられるよう、必要な取組は最後まで実施していくこととしています。



復興防災部復興推進課 ☎019-629-6935

2 いわて復興の歩み 2011.3 - 2023.3

復興の状況

陸前高田市(令和3年5月)

安全の確保



海岸保全施設の復旧・整備箇所数
計画箇所数 142箇所

完了140箇所 **98.6%** 復旧・整備中 **1.4%**

災害廃棄物の処理

災害廃棄物推計量525.3万トン (平成26年3月終了)

処理量618.4万トン **118%**



面整備事業箇所数
事業箇所数 158箇所 (令和3年3月完成)

完了箇所数 158箇所 **100%**

宅地供給区画数

予定宅地区画数 7,472区画 (令和2年12月完成)

供給区画数 7,472区画 **100%**



暮らしの再建



医療施設の復旧状況(沿岸地区)
被災施設数 103施設 (令和2年4月完了)

新設・再開 103施設 **100%**

※廃止した施設を除く

応急仮設住宅等入居者数(みなし仮設を含む)
ピーク時(平成23年10月)43,738人 (令和3年3月完了)

退去 **100%**



公立学校施設の復旧状況(沿岸地区)
被災学校数 86校 (令和元年6月完了)

工事完了 86施設 **100%**

災害公営住宅整備戸数
整備予定戸数 5,833戸 (令和2年12月完成)

完成 5,833戸 **100%**



なりわいの再生



産地魚市場水揚量

令和4年度 84,668トン **49.9%** 震災前3年間(H20~22)の平均 169,627トン

農地の復旧面積

復旧対象面積 542ha (平成31年3月完了)

復旧済 542ha **100%**



養殖生産量

令和4年度 25,304トン **53.3%** 震災前3年間(H20~22)の平均 47,478トン

主要観光地の入込客数 ※県内主要観光地 14箇所を対象

令和3年度 225.1万人回 **47.9%** 震災前(H22) 470.3万人回



未来のための伝承・発信



防災教育教材操作研修会開催回数
開催予定回数 4回(R1~R4)

実績3回 **75%**

いわて三陸復興フォーラム開催回数
開催予定回数 14回(R1~R4)

実績12回 **85.7%**



震災津波アーカイブアクセス件数
目標アクセス件数 731,000回(R1~R4)

実績 1,851,779回 **253.3%**

地域防災サポーター派遣回数
開催予定回数 120回(R1~R4)

実績156回 **130%**



第2期復興推進プラン(令和5~8年度)

これまでの復旧・復興の取組の成果と課題を踏まえ、県では、令和5年度からの4年間を計画期間とする第2期復興推進プランを策定しました。

第2期復興推進プランでは、いわて県民計画(2019~2028)に掲げる「復興の目指す姿」を実現するため、復旧・整備を進めている津波防災施設の早期完成やこころのケアなど復興固有の課題のほか、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震や主要魚種の不漁対策、新型コロナウイルス感染症といった新たな課題に対応するとともに、新たな交通ネットワークを生かした産業振興や水産業の再生に向けた施策、国内外との交流を活発化する施策を展開していきます。

より良い復興~4本の柱~

I安全の確保

災害に強く安全で安心な防災のまちづくりと交通ネットワークの構築を進めます

II暮らしの再建

お互いに支え合いながら安心して心豊かに暮らせる生活環境の構築を目指します

IIIなりわいの再生

地域のなりわいを再生し、地域経済の活性化を図ります

IV未来のための伝承・発信

震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会の実現を目指します

復興の取組とSDGs

岩手県では、国連で採択されたSDGsに共通する「誰一人取り残さない」という理念のもと、より良い復興(ビルド・バック・ベター)を進めてきました。

SDGsは、Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標で、17の目標を掲げています。

復興とは、「災後開発(post-disaster development)」です。例えば、津波被害で発生した膨大なガレキ処理にあたっては、最大限リサイクルを進め、最終的に9割近くを再利用しました。再生可能エネルギーの導入では、太陽光発電機だけでも3,500キロワットを超え、メガソーラー数基分相当となっています。

また、様々な分野で活躍する女性で構成する委員会を設置し、頂いた意見を復興の取組に反映しています。



これまでの主な取組

三陸鉄道リアス線 鳥越駅 (令和3年5月)

(1) 安全の確保

①

防災のまちづくり

宮古市赤前地区・宮古運動公園



生活空間の放射線量などの測定

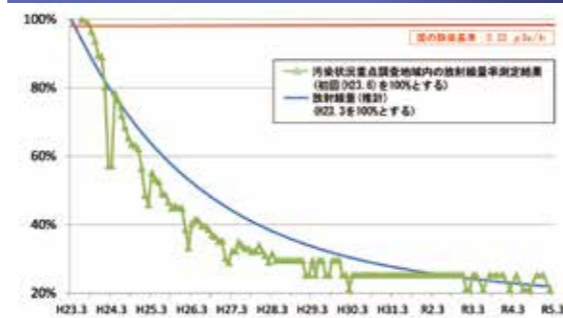
測定結果をホームページで公表

生活空間の放射線量や、大気中のちり、降水(雨、雪)、水道水、農林水産物などに含まれる放射能を測定し、その結果をホームページで公表しています。生活空間の放射線量は、平成25年8月以降、全地点で国の除染基準を下回っており、緩やかな低減から最近では横ばい傾向にあります。



サーベイメータによる測定

汚染状況重点調査地域における測定結果の推移



※積雪時は、遮へい効果で測定値が低めとなっています。

放射能に関する情報 >>



復興のまちづくり

災害に強い安全なまちづくりを実現

令和3年3月末時点で、計画していた7,472区画全てが完成しました。



宅地整備が完了した陸前高田市今泉地区の様子(令和3年2月)



完成した「釜石祈りのパーク」、「いのちをつなぐ未来館」、「鶴の郷交流館」(平成31年3月供用開始)

事業名	実施市町村数・実施箇所数/区画数
土地区画整理事業	7市町村・19箇所/4,911区画
津波復興拠点整備事業	6市町・10箇所
防災集団移転促進事業	7市町村・88箇所/2,090区画
漁業集落防災機能強化事業	11市町村・41箇所/471区画
合計	12市町村・158箇所/7,472区画

(令和3年3月31日現在)

■ 海岸保全施設等の復旧・整備

復興まちづくりと一体となった防潮堤・水門等の復旧・整備

防潮堤等の海岸保全施設の復旧・整備に当たっては、専門家で構成される「岩手県津波防災技術専門委員会」を設置し、各市町村から復興まちづくりの方向性を伺いながら、科学的・技術的な知見に立脚した防潮堤の高さや配置の検討を進め、平成23年10月までに本県沿岸を24の地域海岸に区分し、防潮堤等の高さを公表しました。

また、早期整備のため、土地収用法に基づく事業用地の取得を実施したほか、資材不足への対応として工場製品を活用するなどの取組を進めてきました。

この結果、令和5年3月末時点で復旧・整備が必要な142箇所のうち140箇所まで整備が完了しています。

高田地区海岸の復旧工事の状況



令和4年3月

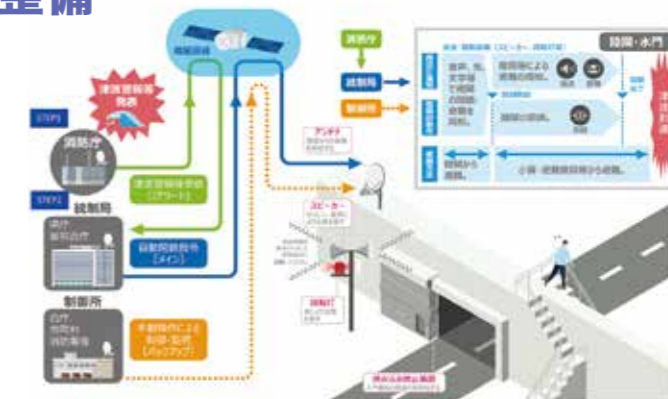
■ 水門・陸閘自動閉鎖システムの整備

津波注意報等を契機に水門・陸閘を自動で閉鎖

東日本大震災津波において、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、操作員の安全の確保や津波から県民の生命と財産を守るため、衛星回線を活用し門扉の閉鎖などを自動で行う「水門・陸閘自動閉鎖システム」の整備を進めています。



鶴住居川水門(令和4年1月16日自動閉鎖システム稼働による閉鎖状況)



自動閉鎖システムの仕組み

当システムは、国が発表する津波注意報等(J-アラート)の受信を契機に、県内の各水門や陸閘に閉鎖の一斉命令を送信し、門扉の閉鎖や閉鎖にかかる安全警報等が自動で開始されます。

平成29年7月から一部で運用を開始し、214基の水門・陸閘での運用開始に向け、整備を進めています。

令和4年1月16日にトンガ諸島付近の海底火山噴火の影響により津波注意報・警報が発表された際には、運用開始後初めて自動閉鎖システムが稼働し、当時運用中の全165施設が閉鎖されました。

※陸閘(りっこう):堤防の海側と陸側を往来するための門扉。

②

交通ネットワーク

■ 港湾の復旧

コンテナ取扱貨物量が過去最高を記録

東日本大震災津波で被災した港湾施設は復旧し、釜石港へのガントリークレーンの整備や新たな外貿定期コンテナ航路の開設など、港湾利用者のニーズに対応した施設整備や機能拡充が進んでいます。

令和元年における本県港湾のコンテナ取扱貨物量は、前年の9,651TEUを大幅に上回る12,615TEUとなり、過去最高を記録しました。

また、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大に起因した世界的な物流混乱の影響を受けましたが、釜石港では内陸部の企業の利用増などにより、令和2年のコンテナ航路の利用企業数が過去最高の113社になるとともに、大船渡港では令和3年のコンテナ取扱貨物量が3,994TEUと過去最高を記録しました。



釜石港のガントリークレーン

復興道路等の整備

三陸沿岸道路等の復興道路が全線開通

災害に強い道路ネットワークを構築するため、三陸沿岸の縦軸及び内陸部と沿岸部を結ぶ横軸となる高規格道路が「復興道路」として、かつてないスピードで整備されました。

令和2年度までに横軸の東北横断自動車道釜石秋田線及び宮古盛岡横断道路が全線開通したことに加え、令和3年12月18日には縦軸の三陸沿岸道路が全線開通し、震災から10年余りで県内の復興道路359kmが完成しました。復興道路の全線開通により、移動時間の短縮や災害に強い道路の確保、渋滞の解消等の効果が地域経済に波及していくことが期待されます。



釜石JCT



三陸沿岸道路 全線開通(令和3年12月18日)

三陸鉄道リアス線誕生

平成31年3月、南北が一つに

三陸鉄道は、東日本大震災津波により甚大な被害を受け、全線が不通となりました。復旧には、クウェート国からの救援金の活用による新車両の導入、駅舎の整備など、多くの企業、団体、個人の皆様からの支援をいただきながら、平成26年4月に南・北リアス線の全線で運行を再開しました。

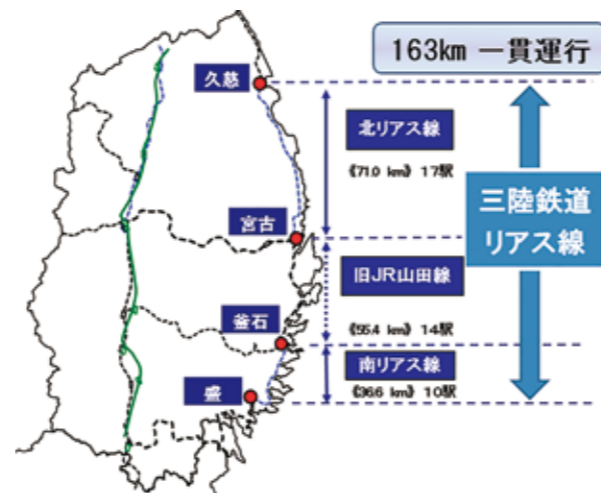
その後、同じく震災により不通となっていた旧JR山田線(宮古-釜石間)は、平成31年3月23日に三陸鉄道へ経営移管され、国内の第三セクター鉄道としては最長となる163km(盛-久慈間)が新たに三陸鉄道リアス線として生まれ変わりました。これにより三陸沿岸が一つのレールで繋がり、住民の利便性が大きく向上しました。



リアス線開通記念列車出発式(平成31年3月23日)



リアス線開通記念列車



出典:「いわての復興道路チラシ」を改変して作成
(<https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/douro/genkyou/1038402.html>)



(2) 暮らしの再建

③ 生活・雇用



災害公営住宅「南青山アパート(盛岡市)」(令和2年12月完成)

災害公営住宅の整備・住宅再建支援

恒久的な住宅供給のために

住宅を失った方への恒久的な住宅供給対策として、平成23年10月に「岩手県住宅復興の基本方針」を策定し、災害公営住宅の整備、民間持家住宅(自力再建)及び民間賃貸住宅への支援による住宅の再建支援に取り組んでいます。

このうち災害公営住宅については、令和2年12月で、計画していた5,833戸が全て完成しました。



大槌町安渡地区災害公営住宅 (平成30年12月完成)

災害公営住宅市町村別整備戸数	
市町村	整備戸数
洋野町	4
久慈市	11
野田村	100
田野畑村	63
岩泉町	51
宮古市	766
山田町	640
大槌町	876
釜石市	1,316
大船渡市	801
陸前高田市	895
その他市町村	310
合計	5,833

(令和2年12月31日時点)

災害公営住宅の整備状況 >>



住まいの改修・再建 >>



生活再建・生活の安定を支援するセンターの設置

被災者の状況に応じた相談支援

平成23年7月から沿岸4地区に被災者相談支援センターを、平成28年5月から盛岡市に内陸避難者支援センターをそれぞれ令和3年3月まで設置し、弁護士等の専門家や関係機関との連携のもと、生活再建に係る様々な相談に対応しました。

令和2年度末までに全ての被災者が応急仮設住宅から恒久的住宅へ移っていますが、その後においても生活面や経済面等の複雑な課題を抱える被災者の相談に対応するため、令和3年4月にいわて被災者支援センターを釜石市に設置しました(盛岡市にはサブセンターを設置)。センターでは、専門家(弁護士、ファイナンシャルプランナー)、市町村や社会福祉協議会等の関係機関と連携し、伴走型の支援を行っています。



開設当初のセンター【釜石地区】



いわて被災者支援センター【釜石市】

いわて被災者支援センター(釜石)

☎ 0193-30-1034 / 携帯電話 080-9634-6650

盛岡サブセンター

☎ 019-601-7640

地域雇用の確保

被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支える

安定的な雇用及び地域の中核となる産業や地域経済の活性化に資する雇用を確保することにより、被災求職者の生活の安定を図り、被災者の復興を支えるため、被災求職者の雇入れに係る費用に対し、1人当たり3年間で最大120万円、退職者の雇入れのために要する住宅支援に係る費用に対し、1年間で最大240万円(最大3年間)の助成を行っています。

令和4年度までの助成対象労働者数	
年度	人数
平成23年度	139人
平成24年度	5,344人
平成25年度	7,298人
平成26年度	4,266人
平成27年度	239人
平成28年度	105人
平成29年度	87人
平成30年度	122人
令和元年度	118人
令和2年度	80人
令和3年度	78人
令和4年度	41人
合計	17,917人

※令和4年度及び合計は、令和5年1月末時点の見込みであり、年度終了時点の実績は、当該人数とは異なる可能性があります。



応急仮設住宅集会所での健康チェック

被災地における保健活動

応急仮設住宅等の生活に対応した予防医療

県、市町村及び関係機関が連携しながら、応急仮設住宅等を保健師などが定期的に巡回し、発災から平成30年度までに延べ約4万人に血圧測定などの健康観察や健康相談、健康教育等の保健活動を行いました。

また、県は、県歯科医師会及び県歯科衛生士会の協力のもと、歯科医師・歯科衛生士による歯科健診や歯科相談等の歯科保健活動を実施し、延べ約1万人に支援を行いました。

こころのケアの取組

被災者1人ひとりの心に寄り添う

岩手県こころのケアセンターの設置

被災者の精神的負担を軽減するため、県内外のチームの支援により、「こころのケア」活動を行い、発災から平成24年3月末までに、延べ30チームの派遣を受け入れ、延べ約9,800人の住民のケアに取り組みました。

この活動を引き継ぎ、平成24年2月に、岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を、3月には、沿岸4箇所(久慈市・宮古市・釜石市・大船渡市)に「地域こころのケアセンター」を設置し、被災者一人ひとりに寄り添ったこころのケアを推進しています。



岩手県こころのケアセンター職員による訪問活動

いわてこどもケアセンターの設置

東日本大震災津波により大きなストレスを抱えながら生活する子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年6月に「子どものこころのケアセンター」を宮古市に開設、気仙地区・釜石地区にも同センターを順次開設しました。

震災後の様々なストレスを抱えて生活する子どもたちの心のケアのため、平成25年5月、中長期的支援の拠点「いわてこどもケアセンター」をクウェート国や日本赤十字社の支援により岩手医科大学矢巾キャンパス内に設置しました。令和元年9月に岩手医科大学附属病院が矢巾へ移転し児童精神科を開設したことから、診療については同病院に引き継ぎ、現在は被災した子どもたちの相談や地域支援等を行っています。



いわてこどもケアセンター

被災地における医療確保支援

慣れ親しんだ地域で健康で安心して暮らせるように

被災県立病院の再建

被災した県立病院については、平成28年5月に大槌病院、9月に山田病院、平成30年3月には高田病院が開院し、すべての県立病院の再建が完了しました。



県立山田病院



県立高田病院

被災地における高齢者の交流促進

いつまでも健康・元気で生きがいを創造

被災地高齢者ふれあい交流促進

災害公営住宅や応急仮設住宅等にお住まいの被災者と地域住民との交流の活性化や高齢者の健康の維持・増進を図るため、誰でも気軽に参加できる「ふれあい運動教室」を開催するとともに、運動教室の中心的役割を担う「ふれあい運動サポーター」の養成講座の開催や、養成講座修了者を対象としたフォローアップ研修を実施してきました。

今後は、地域住民が中心となって自主的に取り組む介護予防事業の活動などを支援していきます。



ふれあい運動教室

被災地における地域包括ケアシステム構築の支援

被災地における地域包括ケアシステムの構築を支援するため、災害公営住宅や応急仮設住宅等にお住まいの要援護高齢者の介護予防や要介護高齢者のリハビリテーションに係る巡回相談と従事者への技術的助言等を行うとともに、介護予防教室・生活相談会・サロン等の開催支援、高齢者の相談・支援等に携わる関係者を対象とした研修などを実施してきました。

今後は、引き続き市町村や関係団体等と連携を取りながら、現地の状況やニーズの変化に対応した介護予防教室の開催などを通じて、地域で高齢者を支える仕組みづくりを支援していきます。



介護予防教室

防災ボランティア支援の取組

官民協働で効率的な防災ボランティア活動へ

ボランティア活動は、被災地のマンパワー不足を補うのみにとどまらず、柔軟できめ細かな支援活動により、多くの被災者を支えました。

こうした活動を一層推進するため、平成26年3月に策定した「岩手県防災ボランティア活動推進指針」に基づき、官民協働で「岩手県防災ボランティアネットワーク」を設置し、非常時における円滑なボランティアの受入に備えています。

令和元年台風第19号災害では、ネットワーク構成団体等が連携して災害ボランティアセンターを支援し、6,400人を超えるボランティアの受入が行われました。



防災ボランティア支援ネットワーク研修会

岩手県防災ボランティア活動推進指針 >>



岩手県災害派遣福祉チームの設置

オール岩手で災害時の福祉を確保

東日本大震災津波の経験を踏まえ、平成25年度に、県、福祉関係団体等と官民学共同により、大規模災害時において、避難所等で高齢者や障がい者など要配慮者*の福祉・介護等のニーズ把握や応急支援などを担う「岩手県災害派遣福祉チーム」を設置しました。

平成28年熊本地震や平成28年台風第10号災害、平成30年7月豪雨では、熊本県や岩泉町、岡山県へチームを派遣し、現地の支援関係者と連携して、避難所でのニーズ把握や環境改善、応急的な介助支援など様々な活動を行い、災害時における要配慮者支援体制の確保に努めました。

*高齢者や障がい者、妊産婦、乳幼児、病弱者等特別な配慮を必要とする方。



チーム員研修

岩手県災害派遣福祉チーム >>



⑤ 地域コミュニティ

助成事例 ①



「被災地事業者等の事業・活動推進、組織基盤強化のための伴走型コーディネート」

被災地の事業者等の事業推進や課題解決を支援するため、事業者のニーズに合わせて、実践型インターンシップや副業を行う外部人材のコーディネートを実施しました。

また、事業者等の資金調達や組織運営基盤の強化を支援するため、専門家によるオンライン相談を行いました。

■ NPO等が行う復興活動を支援

復興支援の担い手の運営力を強化

NPO等は、その機動力、ネットワーク、専門性を活かし、復興支援活動をはじめとした地域課題解決に大きな役割を果たしています。

県は、平成25年度から「NPO等による復興支援事業」を実施し、NPO等が行う復興・被災者支援活動への助成や団体の運営基盤を強化するための支援を行っており、令和3年度までに206団体に事業費助成を行いました。

助成事例 ②

「文化芸術による新たなコミュニティ形成」



文化芸術による新たなコミュニティの形成や心の復興を図るため、東日本大震災津波を題材にした小説の朗読劇や、「3.11文化によるいわて復興フォーラム」を開催しました。

また、市民劇による地域間交流や、市民劇連携フォーラムを開催しました。

環境生活部若者女性協働推進室 ▶ ☎019-629-5198

■ 新たなコミュニティの形成支援

市町村のコミュニティ形成支援をサポート

被災された方が、恒久的な住宅へ移った後も、安心して心豊かに暮らせる生活環境を実現することが求められています。

災害公営住宅や移転先における新たなコミュニティ形成を支援するため、平成29年度から市町村及び被災者支援を行う民間団体等の調整役となるコーディネーターを配置し、市町村の取組を支援しています。



取組事例やノウハウをまとめた冊子「コミュニティ支援のすゝめ」

■ 若者・女性等の復興への参画

住民一人ひとりが復興の主役

復興の取組にあたっては、女性、若者、高齢者、障がい者等の多様な視点が重要です。

被災地では、若者・女性等が主体となった復興まちづくりや地域課題解決に向けた取組も進んでいます。

取組事例

男女共同参画の視点からの防災・復興

多様な視点に配慮した地域防災力の向上を図るため、岩手県男女共同参画センターでは、男女共同参画の視点からの防災・復興をテーマとした講座やワークショップなど、普及啓発に取り組んでいます。



大船渡市で開催した講座の様子
(令和4年9月17日
いわて男女共同参画サポーター養成講座)



街中を探検するワークショップ
(同左)

⑥ 教育・文化・スポーツ

■ 「いわての復興教育」

震災の教訓から得た

3つの教育的価値『いきる』『かかわる』『そなえる』

県内全ての公立小・中学校・義務教育学校及び県立高等学校・特別支援学校では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、「いわての復興教育」プログラムに基づき、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。

また、東日本大震災津波の経験や教訓を踏まえ、副読本や絵本、「いわて震災津波アーカイブ～希望～」、震災伝承施設等を活用し、各校の実情に応じた取組を展開しています。



東日本大震災津波伝承館の見学学習



いわて復興教育スクールの取組



復興教育「絵本」

『いきる』

生命の大切さ・心のあり方・心身の健康

『かかわる』

人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画

『そなえる』

自然災害の理解・防災や安全

「いわての復興教育」教育委員会事務局学校教育室 ▶ ☎019-629-6207

「いわて震災津波アーカイブ～希望～」復興防災部復興推進課 ▶ ☎019-629-6945

「いわての復興教育」▶



■ いわての学び希望基金

子どもたちの「暮らし」と「学び」のために

県では、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」を支援するため、「いわての学び希望基金」を設置し、全国・海外の皆様からの善意の寄附を広く募っています。

皆様からご支援いただいた寄附金は、27,487件、106億円(令和5年3月)となり、親をなくした子どもたちへの奨学金のほか、高校生の教科書購入費用や部活動の遠征費など、被災地の子どもたちを末永く支援していきます。

復興防災部復興推進課 ▶ ☎019-629-6935

「いわての学び希望基金」▶



いわての学び希望基金小冊子

■ 文化・芸術による支援

文化芸術の力で子どもたちに笑顔を

令和2年12月、世界的なヴァイオリニストのイヴリー・ギトリスさんが逝去されました。ギトリスさんは、平成24年3月の県と陸前高田市の合同追悼式において、高田松原の流木で作製したヴァイオリンによる演奏を皮切りに、「復興の絆」コンサートなどで来県され、多くの県民に癒しと復興に向けた勇気を与えてくださいました。ギトリスさんへの追悼の意を込めて、県では、令和3年12月にギトリスさんゆかりの演奏家によるコンサートを開催するとともに、令和5年2月にはこれまでの交流の記録映像を公開しました。

また、世界で活躍する指揮者の佐渡裕さんは、スーパーキッズ・オーケストラとともに毎年被災地を訪れ、「さんりく音楽祭」開催を通じて、音楽で心の復興を支えてくださっています。このほか、被災地の小中学校などでは、楽器演奏、人形劇、演劇など、芸術家の派遣公演が行われています。



いわて「復興の絆」コンサート
(平成28年9月16日)



さんりく音楽祭

■ 伝統文化等の保存・継承

民俗芸能の復興支援

被災した活動用具の購入や施設の修繕に係る費用の一部を補助するなど、民俗芸能団体の活動再開支援に取り組みました。令和3年3月末までに、被害を受けた73団体の支援を行いました。

また、令和2年9月に、大槌町の末広町町営住宅(災害公営住宅)において、「白澤鹿子踊」「向川原虎舞」「松の下大神楽」の3団体が民俗芸能を披露しました。

この催しは、地域の民俗芸能により住民の交流を進めることを目的に行われ、新型コロナウイルス感染症の影響で地域の祭りの多くが中止となっていた中、災害公営住宅の入居者だけでなく、近隣住民も多く参加し、会話や踊りを楽しみました。



白浜虎舞



大浦さんさ踊り



白澤鹿子踊



松の下大神楽

■ ラグビーワールドカップ2019 開催を通じた取組

ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催

令和元年9月25日、釜石鵜住居復興スタジアムにおいて、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと、ラグビーワールドカップ2019「フィジー対ウルグアイ」戦が行われました。

試合前のセレモニーでは、国内外から来場した約14,000人の観客に向け、子どもたちによる復興支援への感謝を伝えるビッグフラッグの掲出や、釜石市内の全小中学校の児童・生徒による「ありがとうの手紙」の合唱披露などが行われ、各種メディアを通じて、岩手から世界に対し復興支援への感謝と復興に力強く取り組む姿を発信しました。

10月13日に開催予定であった「ナミビア対カナダ」戦は、台風第19号の影響で中止となりましたが、カナダ代表チームの被災地ボランティア活動やナミビア代表チームによる市民や子どもたちとの交流が行われ、新たな絆が生まれました。



復興支援への感謝を伝えるビッグフラッグの掲出



フィジー・ウルグアイ 両チームによる白熱したプレー



カナダ代表による被災地ボランティア活動



ナミビア代表による市民との交流

大会を記念したメモリアルイベントの開催

ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催を記念した「いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント」を開催しました。釜石鵜住居復興スタジアムにおいて、令和2年10月9日、10月10日には「釜石シーウェイブスRFC対クボタスピアーズ」戦、令和3年11月14日には「釜石シーウェイブスRFC対コベルコ神戸スティーラーズ」戦をメモリアルマッチとして実施したほか、「いわて・かまいしラグビーファンゾーン」において、パブリックビューイング、ラグビーワールドカップ出場選手によるトークショー、復興情報の発信などを行い、大会レガシーを体感・継承する機会となりました。

■ スポーツ・レクリエーション施設の機能回復

県立野外活動センター開所

令和3年7月1日、東日本大震災津波で全壊した県立野外活動センター(愛称:ひろたハマラインパーク)が、陸前高田市広田町に移転復旧し、全施設の供用を開始しました。

このセンターは、約9万6千㎡の敷地に、200人が宿泊できる宿泊棟や体育館、テニスコート、運動広場などを備えています。

海での体験活動やスポーツ合宿といった従来の機能に加え、避難所開設ゲームの体験や近隣の震災遺構・伝承施設見学など、復興・防災教育の機能も新たに備えた施設として活用されています。



県立野外活動センター(全景)



いかだ体験



避難所開設体験(段ボールベッド体験)

■ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への取組

岩手県「復興の火」の開催

「復興五輪」の観点から、オリンピック聖火リレーの開催に先立ち、ギリシャで採火した火を「復興の火」として、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)で展示しました。

岩手県では、令和2年3月22日と23日の2日間開催し、22日は、宮古駅前出発セレモニーを行い、集まった県民とともに東日本大震災津波の犠牲者に黙とうを捧げた後、知事が聖火皿に点火しました。その後、聖火をランタンに移し、三陸鉄道とJR釜石線SL銀河で運びながら、沿線の駅等で展示セレモニーを行いました。

23日には、大船渡市の防災観光交流センター「おおふなぼーと前広場」で再び聖火皿に点火し、展示セレモニーを行いました。

各会場には聖火を歓迎する多くの方々に来場いただき、「復興五輪」を身近に感じる機会となりました。



聖火皿への点火(宮古駅前)



「おおふなぼーと」での展示の様子

「笑顔で灯そう。幸せの灯。希望の灯。」～東京2020オリンピック聖火巡回展示～

令和3年3月12日から16日までの5日間にわたり、県内5町村(軽米町、九戸村、葛巻町、西和賀町、住田町)において、東京2020オリンピック聖火の巡回展示を実施しました。併せて、小学校での訪問展示も行いました。

また、巡回展示の前日、東日本大震災津波から10年となった同年3月11日には、復興五輪の象徴である聖火が、「東北復興平泉宣言」の地であり、東北の中心に位置するとされる世界遺産・中尊寺を訪問し、岩手のみならず、青森、宮城、福島全ての被災者に寄り添い、希望の光を照らしました。



軽米町でのスタートセレモニー



小学校での訪問展示

復興支援に対する感謝や、復興に取り組む姿の発信

オリンピック聖火リレーやパラリンピック聖火フェスティバル等を実施し、世界中から頂いた復興支援に対する感謝や、復興に取り組む姿を世界に発信しました。

令和3年6月16日からの3日間で開催された聖火リレーでは、沿岸被災地の全ての市町村や、世界遺産などの国内外に誇る岩手ならではの場所を巡る約62.35キロメートルの道のりを、284人のランナーが聖火を繋ぎました。岩手の魅力あふれるルートを巡りながら、県内各地で、たくさんの人々が身近に聖火に接する素晴らしい機会となりました。

7月23日に開催された東京2020オリンピックの開会式では、被災3県の子どもたちが聖火ランナーとして出演し、最終ランナーに聖火を繋ぎました。

また、8月12日からの5日間で開催された聖火フェスティバルでは、県内33市町村での「市町村採火式」が開催された後、各市町村で採火した火をひとつに集め、東京都に向けて出立する「集火・出立式」を行いました。

このほか、「復興五輪」を理念とする東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、復興ありがとうホストタウンの14市町村をはじめとして、ホストタウンに20市町村が登録され、相手国等との交流事業や、事前キャンプの受入支援を行いました。



オリンピック聖火リレー



パラリンピック聖火フェスティバル



選手とのホストタウンでの交流

(3) なりわいの再生

これまでの主な取組



⑦ 水産業・農林業

■ 漁船・共同利用施設・種苗生産施設等の復旧・整備

漁業者の生産活動の早期再開を支援

壊滅的な被害を受けた本県水産業の早期復旧・復興に向けて、漁協による漁船や養殖施設の一括整備、集荷場や作業場等の共同利用施設の復旧・整備などに取り組んできました。

その結果、漁業者や漁業協同組合が必要とする漁船や養殖施設、種苗生産施設等の復旧は全て完了し、震災前の漁業・養殖業の生産基盤が復旧しています。

今後も、新規就業者の確保や意欲ある漁業者の育成、サケの回帰率向上、ワカメやホタテガイなどの養殖生産量の維持・増大に取り組むとともに、サケ・マス類の海面養殖など新たな漁業・養殖業の取組を推進していきます。



早期復旧に向け漁協が核となって漁船を一括整備(首節漁港)



いわて水産アカデミーにおける新規漁業就業者集合研修(ロープワーク)



海面養殖施設でのギンザケの水揚げの様子

漁船等の整備状況・種苗等の生産供給状況

区分	目標値	実績値	達成状況
漁船(累計)	6,693隻	6,485隻※	96.9%
養殖施設(累計)	17,480台	17,428台※	99.7%
ヒラメ種苗放流数(令和4年度)	110万尾	111万尾	100.9%

※ 事業完了(事業期間:平成23年度~平成27年度)

(令和5年3月31日現在)

■ 産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築

地域に根ざした水産業の振興

漁業と流通・加工業の一体的な再生のため、県では、荷捌き施設、製氷・冷蔵施設、水産加工施設等の復旧・整備など、産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築を進めてきました。

その結果、被災した県内全ての産地魚市場が再開し、製氷・冷蔵能力は東日本大震災津波前の水準まで回復したほか、被災した水産加工事業所の約9割が事業を再開しています。

今後も、漁獲から陸揚げ、流通・加工までの一貫した衛生・品質管理を行う「高度衛生品質管理地域づくり」の取組を継続することで、産地競争力を高め、販路の開拓・拡大を図るほか、高品質な県産水産物の魅力を生かした高付加価値化を促進していきます。



宮古市魚市場の改修 高度衛生管理型魚市場(平成31年3月完成)

岩手県高度衛生品質管理地域の認定状況

区分	目標値	実績値	達成状況
認定数	10市町村	10市町村	100%

(令和5年3月31日現在)



専門家による現地指導(高度衛生品質管理体制の構築)



「いわて食の大商談会」の開催(販路の回復・拡大)

■ 県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信

県産農林水産物の販路拡大等を支援

県産農林水産物の販路拡大に向け、全国の消費者・シェフ等を対象とした情報冊子「ニュースレター」・web雑誌・動画配信等による情報発信や、首都圏レストランフェア・商談会の開催、首都圏のシェフを県内に招聘した産地見学会の実施などにより、県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信に取り組みました。



首都圏レストランフェア



首都圏シェフを招いての産地見学会の開催



高品質で安全・安心な県産農林水産物をPRするニュースレターの発行

「三陸国際ガストロノミー会議」の開催

令和元年6月10日と11日の2日間、三陸防災復興プロジェクト2019の一環として「三陸国際ガストロノミー会議2019」を宮古市で、令和2年10月26日と27日の2日間、「三陸国際ガストロノミー会議2020」を大船渡市で開催しました。令和3年は新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、現地での会議の開催を取り止め、公式WEBサイトにおいて講演等の動画を配信しました。

東日本大震災津波に対するこれまでの多くの支援に感謝の意を表し、国内外の著名なシェフや専門家等が、ガストロノミー(美食術・食文化)の視点から、いわて三陸の魅力、豊かな食材や食文化等を発信しました。



ピエール・ガニエール氏による基調講演の様子

被災地における 起業・新事業活動等の支援

さんりくの起業等促進と魅力ある産業の創出

若者や女性をはじめ、被災地において新たなビジネスを立ち上げようとする方への支援を行うことで、復興まちづくりに合わせたなりわいの再生を図るため、平成25年度から「さんりく未来産業起業促進事業」、平成28年度から「さんりくチャレンジ推進事業」、令和元年度から「さんりくなりわい創出支援事業」を実施しました。

令和2年度末までに合計164名の方がこの事業を活用して、起業や新事業活動の展開に取り組みました。

令和3年度及び令和4年度は、「沿岸地域起業等成長支援事業」として専門経営指導員や専門家による指導等を実施し、起業及び新事業展開後の事業継続を支援しました。



本事業を活用し起業や新事業活動に取組んだ事例

- 本場フランス仕込みのガレットを提供するカフェの出店
- 地域のにぎわいを生む商業施設でのパン店の出店
- 沿岸地域の基幹産業の一つである水産加工業の起業

復興防災部復興暮らし再建課 ☎019-629-6930

グループ補助金による 中小企業等の再建支援

地域経済の早期復旧・復興に向けて

東日本大震災津波により被災した中小企業等グループの施設・設備の復旧・整備を支援するため、「岩手県中小企業等復旧・復興支援補助事業」(グループ補助金)を実施しています。

令和4年度までに延べ216グループ1,573事業者がグループ補助金を活用して復旧・復興を進めています。



グループ補助金により再開した商業施設【大船渡市】

「いわて復興パワー」による電気料金の割引

企業局の電力を活用した「震災復興」・「ふるさと振興」への支援

企業局と東北電力株式会社が共同で取り組む「いわて復興パワー」により、企業局の発電した電力を活用して、被災地域の企業等に対する電気料金の割引を行っています。

平成30年度のスタート以来、約1,080事業所に対して電気料金の割引を実施し、約9億2千万円相当の料金低減を行っています。

まちなか再生計画に基づく 商業施設の整備

商店街の本格整備へ

「まちなか再生計画」に基づき、商業施設の整備と周辺のまちづくりが一体となって進められています。

平成29年4月には陸前高田市と大船渡市、令和元年9月には釜石市、令和2年12月には陸前高田市において、商業施設が開業しました。



発酵パークCAMOCY(カモシー)
【陸前高田市】(令和2年12月17日開業)

復興の動きと連動した観光振興

震災学習をはじめとする体験型観光の増加により、教育旅行客が増加

本県沿岸地域には、「明治日本の産業革命遺産(橋野鉄鉱山)」や「三陸復興国立公園」、「三陸ジオパーク」など、三陸ならではの観光資源が存在しており、これらを組み合わせた広域周遊滞在型観光の推進、三陸DMOセンターとの連携などによる観光人材の育成や三陸固有の観光資源を生かした観光地づくりを進めてきました。

令和3年においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光入込客数(延べ人数)は減少していますが、復興道路の全線開通による利便性の向上、震災学習をはじめとした体験型観光の促進により、教育旅行客の入込は、学校数・児童生徒数ともに平成22年以降で最多となりました。また、復興道路周辺の道の駅の整備や宮古市遊覧船「宮古うみねこ丸」の就航開始等観光資源が充実し、三陸地域への誘客促進が期待されています。



宮古市田老地区の「学ぶ防災ガイド」に参加する
高校生の様子

観光入込客数の状況			
圏域	平成22年	令和3年	平成22年対比
県央 (盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町、矢野町)	887万人回	458万人回	51.6%
県南 (花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町)	1,140万人回	610万人回	53.5%
沿岸 (宮古市、大船渡市、釜石市、陸前高田市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村)	582万人回	317万人回	54.5%
県北 (久慈市、二戸市、普代村、野田村、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町)	287万人回	175万人回	61.0%
合計	2,896万人回	1,560万人回	53.90%

教育旅行客入込客数の状況			
	平成22年	令和3年	平成22年対比
教育旅行入込状況(全県・学校)	2,454校	4,555校	185.6%
教育旅行入込状況(全県・児童生徒数)	191,836人回	268,934人回	140.2%

岩手県初となる国際定期便が就航

いわて花巻空港が海外からの玄関口へ

平成30年8月1日、台北との間でいわて花巻空港の開港以来初となる国際定期便が就航し、平成31年1月30日には2路線目となる上海との国際定期便が就航しました。

これらは、岩手から直接台湾や中国につながるだけでなく、東南アジアやヨーロッパ等、世界にもつながる路線となっています。

いわて花巻空港が海外からの玄関口となることで、インバウンドの増加による県内への経済効果のほか、両地域との交流人口の拡大、ビジネスや文化の交流等の活性化が期待されます。



台北定期便



上海定期便歓迎セレモニー
(平成31年1月30日)

被災跡地の利活用

沿岸の気候を生かした園芸振興

防災集団移転促進事業で生じた被災跡地を活用し、様々な施設園芸(イチゴ、トマト等)が展開されています。

陸前高田市の事業者は、夏涼しく、冬の日照時間が長い沿岸南部の気候を生かし、平成30年度からイチゴの周年栽培に取り組んでいます。

大船渡市三陸町越喜来地区の被災跡地にも、新たにイチゴ栽培用木骨ハウスを整備し、陸前高田市にあるこれまでの施設と合わせ、10棟のハウスで、国内生産量が少ない夏秋期を中心に出荷しています。

県内の洋菓子店やパティシエと連携した試作研究会や、首都圏シェフを招聘した産地見学へ参加するなど、販路拡大に取り組んでおり、夏いちごの産地化・ブランド化を進めています。



パックに並んだイチゴ



イチゴ栽培用ハウス



生育中のイチゴ

(4) 未来のための伝承・発信

これまでの主な取組



東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)を拠点とした伝承・発信

命を守り、海と大地と共に生きる～二度と東日本大震災津波の悲しみをくり返さないために～

東日本大震災津波伝承館(愛称・いわてTSUNAMIメモリアル)は、令和元年9月22日の開館以来、約71万人(令和5年4月末時点)の方々にご来館いただいています。館内には解説パネル、写真、動画、被災した実物資料、被災者の証言など約150点を展示するほか、ガイダンスシアター、津波の実写映像、関係者のインタビュー映像を上映するコーナーがあり、それぞれ英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語でも見学することができます。また、解説員(英語・中国語にも対応)が常駐し、国内外から来館した方々の見学をサポートするほか、事前に予約をいただいた学校や企業・団体のお客様に対して展示解説を実施しています。

来館された方々からは、「震災経験のない子どもたちにとって大変意味のある学びとなった」「命を守るため、自分たちにできることが何か、真剣に考える機会になった」「現代ならではの迫力ある映像、情報であり、未永く語り継いでいくべきものである」などの声をいただいています。

このほか、震災の事実や防災・減災について理解を一層深め、三陸各地の震災伝承活動や被災地の復興の現状に関心を持っていただけるよう、定期的に企画展示やセミナー・イベントを開催しています。

東日本大震災津波伝承館は、日本を代表する震災津波学習拠点として、先人の英知に学び、震災の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。そして、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信していきます。



東日本大震災津波伝承館と高田松原津波復興祈念公園



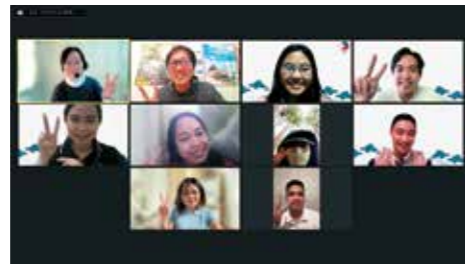
被災した消防車



小学生への展示解説



避難所グッズの体験イベント



海外の学生・研究者への展示解説(オンライン)

「東日本大震災津波伝承館」
TEL ☎0192-47-4455

「いわて復興未来塾」や「いわて三陸復興フォーラム」の開催 復興の今を伝え、復興への参画を促進

復興を担う個人や団体など多様な主体が復興について幅広く学び合う「いわて復興未来塾」を継続的に開催し、相互に交流、連携しながら復興の推進を図っています。

また、被災地域の現状や復興の取組についての情報や支援の感謝を発信するため、「いわて三陸復興フォーラム」を県内外で開催し、復興の取組に対する理解や、継続的な支援、参画の促進を図っています。



令和4年度第2回いわて復興未来塾(震災語り部等ガイドサミット)
(令和4年9月25日)

「三陸防災復興プロジェクト2019」の開催

三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって更に前に進む。

令和元年6月1日から8月7日までの68日間にわたって開催した「三陸防災復興プロジェクト2019」は、三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会が主催する22の事業に加え、市町村や関係機関が実施した関連事業により、復興に力強く取り組んでいる地域の姿や、東日本大震災津波の記憶と教訓を国内外に発信するとともに、三陸地域が本来持っている多様な魅力を伝え、交流の活発化を推進しました。

三陸防災復興プロジェクト2019の目指す姿や成果を踏まえ、引き続き、国内外の多様な主体とつながりながら、三陸防災復興ゾーンプロジェクトを継続して推進し、オール岩手でより良い三陸の復興と岩手の未来に向けて取り組んでいきます。



ホタテモザイクアート



佐渡裕さん音楽祭



震災学習列車



絆スポーツ

ぼうさいこくたい2021～いわて釜石から～の開催

～震災から10年～つながりが創る復興と防災力

令和3年11月6日と7日の2日間、釜石市で、防災推進国民大会2021実行委員会(内閣府等により構成)主催により「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2021」が開催され、約5,800名が釜石市を訪れました。防災推進国民大会は、国民全体の防災意識向上を目的に実施されているもので、6回目となる本大会は「～震災から10年～つながりが創る復興と防災力」をテーマに開催されました。

大会には、県内外の復興や防災に携わる方々が、オンラインや現地で参加し、防災・減災に関する幅広いテーマについて語るセッションや災害時の対応などについて学ぶワークショップ、復興の歩みや団体企業の活動を紹介するブース展示、地震体験車等の屋外展示など、様々なプログラムが実施されました。

防災推進国民大会2021の成果を踏まえ、引き続き、防災・復興に力強く取り組んでいる地域の姿を発信し、国内外の防災力向上に資する取組を進めていきます。



セッションの様子



ブース展示の様子

高田松原津波復興祈念公園・震災遺構の活用

東日本大震災津波による犠牲者への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承

令和3年12月26日、県と国、市が一体となって整備を進めてきた高田松原津波復興祈念公園が全面オープンしました。

同公園内には、国営追悼・祈念施設をはじめ、東日本大震災津波伝承館(愛称・いわてTSUNAMIメモリアル)、タピック45や奇跡の一本松などの震災遺構があり、震災の事実と教訓、防災について学ぶことができる施設となっています。本公園が、追悼・鎮魂の場、震災の伝承・復興の発信の場として後世まで引き継がれ、にぎわいの場としても未永く活用されていくことが期待されます。



高田松原津波復興祈念公園



奇跡の一本松



タピック45(旧道の駅高田松原)



陸前高田コースホテル



気仙中学校



下宿定住促進住宅

■ いわて防災サミットの開催

～produce by いわてワンプロ～

令和5年3月10日、盛岡市において、「いわて防災サミット」が開催されました。
 県が公表した最大クラスの地震・津波被害想定を踏まえ、犠牲者ゼロに向けて何をなすべきか、有識者等の基調講演により防災・減災を考えました。
 また、災害救助犬の認知度向上を図り、その育成や普及、活動を支援する「育てよう災害救助犬プロジェクト いわてワンプロ」の活動状況報告や、災害現場で災害救助犬に指示を出すハンドラーの講演により、災害救助犬に関する知見を深めました。
 本イベントの成果を踏まえ、自助・共助・公助に基づく防災体制づくりに向けて、引き続き、県民一人ひとりの防災意識の向上や、地域コミュニティにおける住民同士が助け合える体制の強化、国・県・市町村・防災機関が連携した防災・減災体制の整備などの取組を推進します。



活動状況報告の様子

■ 復興動画・ポスター「いわて・三陸から ありがとう!」の制作

復興の歩みを進める岩手の姿と支援への感謝を発信

震災の記憶と教訓の伝承や復興への継続的な支援につなげるため、「いわて・三陸から ありがとう!」をテーマとした動画とポスターを制作しました。動画とポスターは、特設サイトからご覧いただけます。



特設サイト「いわてとあなたが、つながるページ」



岩手県公式動画チャンネル



■ 震災語り部等ガイドの交流・人材育成等の取組

～後世へ語り継ぐ～

県では、東日本大震災津波の事実と教訓を語り継ぐ活動を行う各地の震災語り部等ガイドの交流促進や育成支援を目的にセミナーを開催しています。令和4年7月22日に開催したセミナーでは、沿岸地域で語り部活動をしている参加者が、活動内容や課題などについて意見交換をするとともに、普段の活動をしている地域とは別の震災伝承施設などのガイドを視察しました。
 また、令和3年11月に釜石市で開催された「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2021」に併せ、沿岸地域の震災伝承施設(計5施設)を紹介する動画を作成し、参加者に情報発信するとともに、県内外のイベントでの放映や動画共有サイトでの公開をしています。



交流セミナー



他施設のガイドを視察



震災伝承施設を紹介する動画

「後世へ語り継ぐ復興語り部動画」



■ 「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」の制定

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、本県では、甚大な被害を受けました。

今後も復興に向けた歩みは続いていきますが、二度と同じ悲劇を繰り返さないために、復興が果たされる日が来ても、震災の記憶を風化させることなく、震災を体験していない世代やこれから生まれてくる子どもたちにもあの日の悲しみと教訓を伝承していく必要があります。また、震災により亡くなった人々の果たせなかった想いを引き継ぎ、未来のために力を合わせてより良い地域を創造し築いていくことが重要です。

こうしたことから、県では令和3年2月に条例を制定し、震災により亡くなった多くの尊い命に追悼の意を表し、震災の教訓を伝承するとともに、これまでの復興に向けた歩みの中で得られた多くの絆を大切に、一人ひとりの大切な人に想いを寄せ、ふるさと岩手を築いていくことを誓い、東日本大震災津波を語り継ぐ日を定めました。

東日本大震災津波を語り継ぐ日

3月11日は、「東日本大震災津波を語り継ぐ日」です。

県の取組、県民の取組の促進

県は、市町村その他の団体と連携して条例の趣旨の普及や趣旨に沿った取組を行うとともに、市町村等が行う取組への協力や県民の自発的な取組の促進に努めます。



■ 「いわて震災津波アーカイブ～希望～」の公開

約24万点の東日本大震災津波に関する資料を収集

東日本大震災津波からの復旧・復興の事実を後世に残すと同時に、これらの出来事から得た教訓を今後の国内外の防災活動に生かすため、平成29年3月に「いわて震災津波アーカイブ～希望～」をインターネット上で公開し、収集した約24万点の震災津波関連資料を検索・閲覧できるようにしています。

通常の検索機能等に加え、「そなえ」や「前例なき対応」などテーマごとに6つに分類し、防災教育や地域の防災活動等に活用しやすくしているほか、子ども向けコンテンツや震災直後の地元新聞紙の記事なども御覧いただけます。

いわて震災津波アーカイブ



「いわて震災津波アーカイブ～希望～」



■ 東日本大震災津波からの復興—岩手からの提言—

東日本大震災津波からの復興の取組と、そこから得られた教訓や提言

東日本大震災津波の経験や教訓を県の組織内で確実に継承し、将来の災害の発生に備えるとともに、取りまとめた内容を発信することで日本全体の防災力向上に貢献しようとするものです。

他の自治体に対しても発信を行い、将来の災害対応等に役立てていただくとともに、国が所管する復興を支える制度や財源などの仕組みについても、提言を行っています。

県が取り組んできた各分野の取組や教訓を中心に取りまとめながら、有識者の方々からの教訓・提言などのメッセージ、また沿岸市町村や関係団体・企業等のそれぞれの取組や提言を寄稿していただき、掲載しています。「東日本大震災津波からの復興—岩手からの提言—」



提言集



(5) 全国・海外からの応援

これまでの主な取組



■ 自衛隊による活動

138日間にわたり多方面での支援活動を展開

東日本大震災津波では、10万7千人という空前の規模で自衛隊が派遣されました。陸・海・空の3自衛隊が、訓練以外で統合任務隊として運用されたのは初めての事です。

自衛隊は、被災者の救出や行方不明者の捜索のほか、がれきの撤去、支援物資の運送、給水、給食のほか、女性自衛官による「お話し隊」が避難所を巡回して傾聴活動を行うなど、多方面にわたる活動を展開しました。



音楽隊によるミニコンサート【田野畑村】



行方不明者の捜索【大船渡市】

■ 消防による活動

全国からの援助隊と地元消防団により活動を展開

本県からの緊急消防救助隊派遣要請により、全国からの緊急消防救助隊の派遣数が延べ2,279隊、7,633人にのぼり、名古屋市消防局が県内消防活動全般の指揮をとるなど、多くの都道府県隊の支援による活動が行われました。

また、地元消防団員も、自ら被災した団員も多い中、被災住民の救助や避難所の運営支援、行方不明者の捜索活動などを行ったほか、近隣市町村の消防団員延べ1,400人以上による支援活動が行われました。



緊急消防救助隊【大船渡市】



県外から被災地に到着した消防車群【陸前高田市】

■ 被災市町村への職員派遣

全国の自治体等から
5,000人を超える人材を確保

東日本大震災津波により、沿岸の5市町村で108人の職員の方が犠牲となりました。このような中、発災直後の3月末に、名古屋市から陸前高田市に対して職員派遣の申出があり、その後も県内及び全国の自治体から同様の申出などにより、平成23年度は171人を、令和5年3月までに5,000人を超える人材を確保することができました。現在も継続して全国の自治体に協力いただいています。



派遣職員の職場の様子(令和2年度・陸前高田市役所)

平成23～令和4年度の人材確保の状況(職種別) (単位:人)								
	必要人数	派遣決定数	一般事務 うち用地関係	土木	建築	保健師	その他	
平成23年度 (H24.3.1現在)	—	171	97	0	42	10	12	10
平成24年度 (H25.3.1現在)	366	321	145	21	127	21	16	12
平成25年度 (H26.3.1現在)	628	596	294	70	204	38	21	39
平成26年度 (H27.3.1現在)	737	697	397	83	204	44	15	37
平成27年度 (H28.3.1現在)	777	715	418	65	211	43	8	35
平成28年度 (H29.3.1現在)	760	695	420	46	188	42	8	37
平成29年度 (H30.3.1現在)	671	615	373	48	161	29	12	40
平成30年度 (H31.3.1現在)	575	524	347	33	120	23	11	23
令和元年度 (R2.3.1現在)	422	399	261	19	101	16	7	14
令和2年度 (R3.3.1現在)	307	307	216	12	69	9	6	7
令和3年度 (R4.3.1現在)	67	66	43	3	19	1	1	2
令和4年度 (R5.3.1現在)	36	33	25	1	4	0	2	2

※その他は、機械技師、電気技師、看護師、社会福祉士、保育士、理学療法士、司法書士など。

令和4年度における被災市町村の人材確保の状況 (単位:人)				
山田町	大槌町	釜石市	陸前高田市	合計
1	3	2	27	33

(令和5年3月1日現在)

■ 全国から226人の警察官が本県へ特別出向

被災地の安全と安心の確立のために

平成23年度から平成28年度まで1都15県から延べ226人の警察官が本県に特別出向し、被災地の良好な治安の確保のため、応急仮設住宅の巡回やパトロール活動をはじめ、交通安全活動、犯罪の取締りなどに従事しました。

また、大船渡・釜石・宮古署では、沿岸地域の児童・幼児を対象に、ヒーロー寸劇等による防犯啓発活動も行いました。



特別出向警察官着任式



警察官によるヒーロー寸劇

本県への警察官特別出向人数	
出向元	出向人数(延べ)
青森県	15
警視庁	31
埼玉県	8
神奈川県	10
山梨県	11
長野県	23
三重県	15
岡山県	17
広島県	32
徳島県	5
香川県	7
高知県	5
熊本県	18
大分県	9
宮崎県	9
沖縄県	11
合計	226

■ 医療チームの派遣

全国各地の医師による被災地医療支援

発災直後には、国の要請を受けた全国のDMAT(災害派遣医療チーム)が来援し、29都道府県の128チームがトリアージ*や応急処置、病院支援の活動を展開しました。

また、発災後間もなく岩手医科大学に設置された「災害時地域医療支援室」が窓口となって受入調整を行い、平成23年12月末までの間に88チーム、延べ4,463人の県外医師による医療支援が行われました。

さらに、岩手県医師会(JMAT岩手)による、内陸部から沿岸被災地への診療応援活動により、県立山田病院と県立大槌病院がその支援を受けました。

※傷病者の緊急度や重症度に応じて、治療等の優先順位を決めること。



参集したDMATによる打合せ【宮古市】(平成23年3月)

■ 海外からの支援

つながりに感謝

被災地では、米軍と自衛隊による「トモダチ作戦」をはじめ、米国・英国・中国などの救援隊も救援活動にあたりました。

また、発災直後から、多くの国々から支援物資が届けられたほか、台湾をはじめとする世界各国・地域からの義援金や寄附金が、三陸鉄道の復旧や被災地における保育所・学童施設・ホールなどの施設整備に役立てられました。

©US Pacific Fleet



海外からの救援隊【大船渡市】(平成23年3月)

これまでいただいた支援の状況

東日本大震災津波発災以降、国内外の皆様から多大な御支援や励ましをいただき、心より厚く御礼を申し上げます。

ふるさといわて応援寄付 17億円
(ふるさと納税) (令和5年3月末現在)

三陸沿岸振興、ラグビーワールドカップ2019を契機とした観光客受入れ等基盤整備や国際リニアコライダの実現など、岩手の施策を実現するための資金として活用させていただいております。

ふるさと振興部地域振興室 ▶ ☎019-629-5184

寄附金 198億円
(令和5年3月末現在)

被災者の生活支援や住宅再建支援、雇用確保や産業の復興に活用させていただいております。

保健福祉部保健福祉企画室 ▶ ☎019-629-5408

義援金 545億円
(令和5年3月末現在)

被災された方々の生活再建のために活用させていただいております。

復興防災部復興くらし再建課 ▶ ☎019-629-6926

いわての学び希望基金 106億円
(令和5年3月末現在)

教育の充実のための奨学金、教科書や制服の購入費、修学旅行や部活動への参加経費など、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」のために活用させていただいております。 ※いわての学び希望基金には、ふるさと納税の一部が含まれています。

復興防災部復興推進課 ▶ ☎019-629-6935

活動ボランティア受入人数 延べ570,723人
(令和5年3月末現在)

今後とも、被災者と被災地に寄り添うご支援を引き続きお願いいたします。

岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター ▶ ☎019-637-4483

復興が着実に進むよう、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



これまでの復興の歩み

2011.3~2023.3

2011

- 3月 11日 東日本大震災津波発生 1
岩手県災害対策本部設置
- 13日 県内の避難者数が最多の5万4,429人に(在宅含む)
- 15日 航路等の啓開により、県内港湾で初めて釜石港の荷役制確保
- 16日 釜石港に救援物資を積んだ第1船入港
三陸鉄道北リアス線陸中野田～久慈間の運行再開(以後、4月1日までに他2区間において運行再開)
- 19日 応急仮設住宅の建設を開始(陸前高田市・釜石市)
- 4月 9日 県内初となる応急仮設住宅への入居開始(陸前高田市)
- 11日 「がんばろう!岩手宣言」発表 2
「岩手県東日本大震災津波復興委員会」設置
- 29日 東北新幹線が全線復旧
- 5月 6日 天皇后両陛下が被災地をご訪問(釜石市・宮古市)
- 25日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(～26日、大槌町・山田町)
- 6月 2日 宮古市に「子どものこころのケアセンター」を設置
- 6日 正仁親王妃殿下が避難所をご訪問(雫石町)
- 20日 「東日本大震災復興基本法」成立
- 29日 平泉の文化遺産が世界遺産に登録
- 7月 3日 「東北復興平泉宣言」発表
- 13日 県内で初めて宮古港のコンテナ貨物取扱い再開
- 15日 三陸鉄道が2014年4月までに全線運行再開の方針を決定
- 26日 自衛隊が本県での支援活動任務を終了、県庁前で感謝式開催
- 8月 5日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(大船渡市)
- 11日 県内全ての応急仮設住宅が完成
県が「岩手県東日本大震災津波復興計画復興基本計画」を策定
- 31日 県内の全ての避難所を閉鎖
- 9月 16日 憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(住田町・陸前高田市)
- 28日 東京都が岩手県内のがれき受け入れを発表、初の広域処理へ
- 10月 3日 岩手県産業復興相談センター開所
- 11月 20日 復興道路が着工(三陸沿岸道路(尾肝要道路))(田野畑村)
- 12月 7日 「東日本大震災復興特別区域法」成立
- 26日 県が復興特区プロジェクトチームを設置

2012

- 2月 15日 岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」開設
- 10日 国が復興庁を設置し、盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所を設置
- 26日 釜石港湾口防波堤の復旧工事に着工(釜石市)
- 3月 8日 県内初の防潮堤復旧工事に着工(宮古市金浜海岸)
- 11日 東日本大震災津波から1年、各地で追悼式などが挙行される 3
東日本大震災津波 岩手県・陸前高田市合同追悼式開催
- 28日 沿岸4箇所に「地域こころのケアセンター」を設置
- 4月 1日 「いわてDC(デスティネーションキャンペーン)」を開催(～6月30日)
- 5月 26日 東北六魂祭が盛岡で開催され、2日間で24万人を超える人出を記録
- 6月 11日 県が「復旧・復興ロードマップ(総括工程表)」を発表

- 6月 14日 県内で初めて災害公営住宅の建設に着手(釜石市平田地区)
- 9月 12日 陸前高田市「奇跡の一本松」を保存のため伐採
- 10月 10日 県内で初めて、高台移転のための用地造成工事に着工(田野畑村)
- 11月 25日 大震災津波後、県内で初めてとなる復興道路の供用開始(東北横断自動車道釜石秋田線(宮守～東和)) (遠野市、花巻市)
- 12月 10日 県内で初めて災害公営住宅への入居開始(大船渡市盛中央団地)
- 13日 大槌町の蓬莱島の灯台が再点灯
- 19日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(～20日、陸前高田市・大船渡市・遠野市・盛岡市)

2013

- 1月 26日 大阪府において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 2月 1日 県内全ての応急仮設住宅団地500メートル以内にバス停の設置を完了
- 6日 東京都において「東北連携復興フォーラム」を開催
- 9日 宮古市において「復興のかけ橋フォーラム」を開催
- 3月 2日 JR大船渡線気仙沼～盛間でBRTによる運行開始 4
- 10日 復興道路「宮古盛岡横断道路(築川道路)」供用開始(盛岡市)
- 11日 東日本大震災津波 岩手県・大槌町合同追悼式開催
- 23日 復興道路「三陸沿岸道路(宮古道路(宮古中央インター線))」供用開始(宮古市)
- 25日 県内で初めてとなる移転先宅地の造成工事が完了(宮古市追切・浦の沢地区)
- 4月 1日 久慈市をメインロケ地としたNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」放映開始
- 3日 三陸鉄道南リアス線盛～吉浜間の運行再開
- 5月 8日 矢巾町に「いわてこどもケアセンター」を設置
- 24日 「三陸復興国立公園」創設
- 7月 3日 「奇跡の一本松」保存事業完成式開催
- 4日 天皇后両陛下が被災地をご訪問(～5日、遠野市・住田町・大船渡市・陸前高田市・一関市)
- 25日 2016年国体の岩手開催が正式決定
- 8月 5日 正仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(～6日、岩泉町・田野畑村・野田村・久慈市)
- 23日 「ILC立地評価会議」が国際リニアコライダー(ILC)の国内建設候補地を北上山地に決定
- 27日 米国ニューヨーク市で「トモダチでありがとう」震災復興報告会を開催
- 9月 24日 県沿岸部を中心とした「三陸ジオパーク」が日本ジオパークに認定
- 10月 13日 復興道路「三陸沿岸道路(普代道路)」供用開始(普代村)
- 11月 1日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(～2日、釜石市)
- 2日 大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 12月 19日 愛知県において「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」を開催

2014

- 2月 6日 シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(～7日)
- 13日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 復興道路「三陸沿岸道路(尾肝要道路)」供用開始(田野畑村)

- 3月 11日 東日本大震災津波 岩手県・山田町合同追悼式開催
- 23日 復興道路「三陸沿岸道路(高田道路)」全線供用開始(陸前高田市)
- 陸前高田市で土砂搬出用のベルトコンベア「希望のかけ橋」稼働開始
- 31日 本県の災害廃棄物処理が終了
県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第2期)」を策定
- 4月 5日 三陸鉄道南リアス線 吉浜～釜石間の運行再開により、全線において運行再開
山田町立船越小学校、被災校舎から移転・新築した新校舎での授業開始、被災3県で初
- 6日 三陸鉄道北リアス線 小本～田野畑間の運行再開により、全線において運行再開
- 12日 釜石線花巻～釜石駅間でSL銀河が営業運転を開始 5
- 23日 大船渡市新魚市場の完成式典開催
用地取得迅速化のための「東日本大震災復興特別区域法の一部を改正する法律」成立
- 5月 29日 リアスハーバー宮古の復旧工事了了・供用再開
- 6月 23日 県栽培漁業協会が震災後初のアワビ種苗を出荷
- 26日 国・県・陸前高田市による「高田松原津波復興祈念公園基本構想」策定
- 8月 24日 復興道路「宮古盛岡横断道路(平津戸松草道路・区界道路)」の着工により県内の復興道路が全て着工
- 30日 仏国パリ市で「東北復興祭「環<WA>」in PARIS」開催(～31日)
- 11月 7日 「つながりに感謝」震災復興報告会を開催
- 12月 18日 釜石警察署平田駐在所が開所、警察施設としては県内初の災害復旧後の開所

2015

- 1月 8日 兵庫県において「いわて三陸復興フォーラム in 神戸」を開催
- 15日 盛岡市・大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」、シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(～16日)
- 28日 宮古市立田老第三小学校校庭の応急仮設住宅を解体、学校校庭からの完全撤去は県内初
- 2月 12日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 「ラグビーワールドカップ2019」の開催都市に「岩手県・釜石市」が決定
- 11日 東日本大震災津波 岩手県・野田村合同追悼式開催
- 14日 「第3回国連防災世界会議」が仙台市をメイン会場に開催(～18日)
岩手県は「防災・復興に関する岩手県からの提言」を世界に発信 6
- 19日 「3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館」が開所(遠野市)
- 19日 県立高田高等学校新校舎が完成(陸前高田市)
- 31日 県内牧草地の除染作業が完了
- 4月 26日 再建された小袖海女センターがオープン(久慈市)
- 5月 30日 第1回いわて復興未来塾を開催(盛岡市)
- 7月 8日 釜石市の橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録
- 12日 県内で初めて、仮設商店街が本設として移転オープン(大船渡市)
- 11月 10日 台湾台北市で「つながりに感謝」震災復興報告会を開催
- 22日 高台移転地の造成工事がほぼ完了した田老地区で「田老まちびらき記念式」が開催される(宮古市)
- 29日 復興道路「三陸沿岸道路(吉浜道路)」供用開始(大船渡市)
- 12月 5日 復興道路「東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～宮守)」供用開始(遠野市)
- 18日 静岡県において「いわて三陸復興フォーラム in 静岡」を開催
- 23日 「小本津波防災センター」が完成し岩泉小本駅と一体化

2016

- 1月 22日 盛岡市・大槌町において「いわて三陸復興フォーラム」を開催(～23日)
- 27日 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体冬季大会」を開催(～31日、2月20日～23日)
- 2月 10日 「東北4県・東日本大震災復興フォーラムin東京」を開催
- 3月 11日 東日本大震災津波 岩手県・大船渡市合同追悼式開催
- 12日 復興道路「宮古盛岡横断道路(川目～田の沢)」供用開始(盛岡市)
- 13日 大船渡駅周辺地区で「第1期まちびらき」を開催
- 4月 11日 新「がんばろう!岩手」宣言発表
- 17日 大槌町の浪板海岸に「浪板海岸ヴィレッジ」がオープン
- 23日 久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」が営業再開
「田老野球場(愛称:キット、サクサク野球場)」の復旧祭を開催
- 27日 県立大槌病院が再建、新築落成式を開催
- 5月 20日 いわて内陸避難者支援センターを開所
- 6月 20日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(～21日、岩泉町・宮古市)
- 8月 19日 県立山田病院が再建、新築落成式を開催
- 30日 台風10号が岩手県に上陸
- 9月 26日 被災した小・中5校を統合、県内初の義務教育学校大槌町立大槌学園の新校舎での授業開始
- 28日 天皇后両陛下が被災地をご訪問(～10月2日、花巻市・遠野市・釜石市・大槌町・山田町・北上市・盛岡市)
- 10月 1日 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体本大会」を開催(～11日)、開会式に天皇后両陛下ご臨席 7
- 3日 彬子女王殿下が被災地をご訪問(～5日、釜石市・大槌町・奥州市・花巻市)
- 5日 正仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、奥州市・花巻市・北上市・陸前高田市)
- 憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、滝沢市・盛岡市・奥州市・釜石市)
- 寛仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、大船渡市・釜石市・花巻市・奥州市)
- 7日 眞子内親王妃殿下が被災地をご訪問(～9日、盛岡市・紫波町・宮古市・岩泉町・田野畑村)
- 8日 瑠子女王殿下が被災地をご訪問(～10日、洋野町・野田村・普代村・久慈市・滝沢市・盛岡市・二戸市)
- 9日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(～11日、久慈市・岩手町・雫石町・矢巾町・盛岡市・北上市)
- 11日 文仁親王同妃両殿下が「希望郷いわて国体本大会」閉会式ご臨席
- 21日 皇太子殿下が被災地をご訪問(～23日、盛岡市・花巻市・北上市・奥州市・一関市・平泉町)
- 22日 第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」を開催(～24日)、開会式に皇太子殿下ご臨席
- 23日 憲仁親王妃殿下及び絢子女王殿下が被災地をご訪問(～24日、盛岡市・花巻市・金ケ崎町・北上市)
- 24日 憲仁親王妃殿下及び絢子女王殿下が「希望郷いわて大会」閉会式ご臨席
- 11月 10日 山田町で共同店舗「オール」オープン
- 12月 3日 長野県において「いわて三陸復興フォーラム in 長野」を開催

2017

- 1月 20日 盛岡市・釜石市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 3月 3日 「東北4県・東日本大震災復興フォーラムin東京」及び「東京から元気を届けよう!復興応援2017」を開催
- 5日 「高田松原津波復興祈念公園」着工
- 11日 東日本大震災津波 岩手県・釜石市合同追悼式開催
- 19日 大船渡港湾口防波堤が完成 8



岩手日報2011年3月13日付

岩手日報2013年3月3日付

- 3月 30日 県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第3期)」を策定「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を公開
- 4月 27日 商業・図書館複合施設「アバッセたかた」オープン
- 29日 商業施設「キャッセン大船渡」オープン
- 7月 27日 「全国知事会議岩手」が盛岡市で開催され、「岩手宣言」を採択(～28日)
- 9月 23日 大阪府から岩手県に無償譲渡された「ガントリークレーン」供用開始
- 11月 19日 復興道路「三陸沿岸道路(山田～宮古南)」供用開始(山田町・宮古市)
- 12月 8日 釜石市民ホール「TETTO」開館記念式典開催
- 9日 「いわて三陸復興フォーラムin東京」開催

2018

- 1月 26日 盛岡市、大船渡市、陸前高田市で「いわて三陸復興フォーラム」開催(～27日)
- 2月 16日 県立高田病院が再建、新築落成式を開催
- 17日 「復興応援・復興フォーラム2018in東京」を開催
- 3月 11日 東日本大震災津波 岩手県・宮古市合同追悼式開催
- 21日 復興道路「三陸沿岸道路(田老真崎海岸～岩泉龍泉洞)」供用開始(宮古市・岩泉町)
- 30日 釜石港湾口防波堤完成
- 6月 2日 「東北絆まつり2018盛岡」開催(～3日)
- 10日 大槌町文化交流センター「おしゃっち」開館
- 22日 岩手県初のフェリー航路「宮古・室蘭フェリー」宮古港から出航
- 7月 17日 「国際防災・危機管理研究 岩手会議」の一般向け公開プログラムとして「平成30年度第1回いわて復興未来塾」を開催
- 28日 復興道路「三陸沿岸道路(陸前高田長部～陸前高田)」供用開始(陸前高田市)
- 8月 11日 復興道路「三陸沿岸道路(吉浜～釜石南)」供用開始(大船渡市・釜石市)
- 19日 釜石鶴住居復興スタジアムが完成、オープニングイベントを開催
- 10月 1日 宮古市中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」供用開始
- 11月 17日 「いわて三陸復興フォーラムin埼玉」開催
- 12月 14日 陸前高田市立気仙小学校が再建 9
- 16日 盛岡市、宮古市で「いわて三陸復興フォーラム」を開催(～17日)

2019

- 1月 12日 復興道路「三陸沿岸道路(大槌～山田南)」供用開始(大槌町・山田町)
- 2月 10日 「復興応援・復興フォーラム2018in東京」を開催
- 3月 3日 復興道路「東北横断自動車道釜石秋田線(遠野住田～遠野)」供用開始(遠野市)
- 9日 復興道路「三陸沿岸道路(釜石南～釜石両石)」、
「東北横断自動車道釜石秋田線(釜石～釜石仙人峠)」供用開始(釜石市)
- 東北横断自動車道釜石秋田線が全線開通
- 11日 東日本大震災津波 岩手県・久慈市合同追悼式開催
- 21日 復興道路「三陸沿岸道路(唐桑小原木～陸前高田長部)」供用開始(宮城県気仙沼市・陸前高田市)
- 23日 三陸鉄道「リアス線」全面開通
- 30日 復興道路「宮古盛岡横断道路(宮古中央～宮古根市)」供用開始(宮古市)
- 6月 1日 「三陸防災復興プロジェクト2019」開幕(～8月7日)
- 9日 「みちのく潮風トレイル」全線開通
- 10日 「三陸国際ガストロノミー会議2019」が開催(～11日)(宮古市)

- 6月 22日 復興道路「三陸沿岸道路(釜石北～大槌)」供用開始(釜石市・大槌町)
- 30日 「山田町復興祈念まちびらき」開催(山田町)
- 9月 22日 「東日本大震災津波伝承館」(愛称:「いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル」)が開館 10
- 25日 ラグビーワールドカップ2019日本大会釜石開催のフィジー対ウルグアイ戦が釜石鶴住居復興スタジアムで開催
- 10月 12日 台風19号が岩手県に上陸
- 11月 5日 大槌町赤浜①団地災害公営住宅が完成
- 5日 県沿岸部の災害公営住宅全5,550戸が整備完了
- 16日 令和元年度第1回いわて復興未来塾を開催(陸前高田市)
- 12月 7日 「いわて三陸復興フォーラムin神奈川」を開催(神奈川県)
- 8日 復興道路「宮古盛岡横断道路(田の沢～手代森)」供用開始(盛岡市)

2020

- 1月 26日 令和元年度いわて三陸復興フォーラムを開催(～27日)(盛岡市・釜石市)
- 3月 1日 復興道路「三陸沿岸道路(久慈北～侍浜)」供用開始(久慈市)
- 11日 東日本大震災津波 岩手県・釜石市合同追悼式開催
- 22日 「復興の火」としてオリンピック競技大会の聖火が岩手に到着(～23日)(大船渡市・宮古市・大槌町・山田町)
- 28日 復興道路「宮古盛岡横断道路(下川井工区)」供用開始(宮古市)
- 5月 18日 三陸鉄道リアス線「新田老駅」開業(宮古市)
- 7月 12日 復興道路「三陸沿岸道路(宮古中央～田老真崎海岸)」、
「宮古盛岡横断道路(宮古港～宮古中央)」供用開始(宮古市)
- 8月 1日 大船渡港野々田地区緑地公園(愛称:サン・アンドレス公園)がオープン(大船渡市)
- 19日 釜石市の根浜海岸の砂浜再生工事が完成 11
- 23日 令和2年度第1回いわて復興未来塾開催(大槌町・山田町)
- 10月 9日 いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント開催(～10日)
- 26日 「三陸国際ガストロノミー会議2020」が開催(～27日)(大船渡市)
- 12月 5日 復興道路「宮古盛岡横断道路(区界～築川)」供用開始(宮古市・盛岡市)
- 7日 災害公営住宅県営南青山アパートが完成(盛岡市)
- 本県における災害公営住宅全5833戸が整備完了
- 12日 復興道路「三陸沿岸道路(洋野種市～階上)」供用開始(洋野町・青森県三戸郡階上町)
- 13日 「いわて三陸復興フォーラム」を完全リモート配信で開催(久慈市・宮古市・釜石市・陸前高田市・東京都)
- 復興支援道路「一般国道340号押角峠工区」供用開始(宮古市・岩泉町)
- 17日 陸前高田市気仙町今泉地区で「陸前高田発酵パークCAMOCY」が開業
- 19日 復興道路「三陸沿岸道路(田野畑北～普代)」供用開始(田野畑村・普代村)
- 31日 陸前高田市で実施していた土地区画整理事業による宅地の造成工事が完了
- 本県における宅地造成(7,472戸分)が全て完了

2021

- 1月 23日 まちづくり連携道路「主要地方道重茂半島線」完工(宮古市・山田町)
- 31日 令和2年度第2回いわて復興未来塾開催(～2月1日)(盛岡市)

- 2月 19日 「東日本大震災津波を語り継ぐ日」条例を公布、施行
- 3月 4日 天皇、皇后両陛下が東日本大震災からの復興状況を御視察(オンラインによる行幸啓)
- 11日 三陸鉄道「3.11を語り継ぐ感謝のリレー列車」運行 12
- 東日本大震災津波 岩手県・陸前高田市合同追悼式開催
- 12日 東京2020オリンピック聖火の巡回展示(～16日)(軽米町・丸戸村・葛巻町・西和賀町・住田町)
- 20日 復興道路「三陸沿岸道路(侍浜～洋野種市)」供用開始(久慈市・洋野町)
- 28日 復興道路「宮古盛岡横断道路(宮古市墓目～腹帯)」、
「宮古盛岡横断道路(宮古市川井～箱石)」、
「宮古盛岡横断道路(宮古市平津戸・岩井～松草)」供用開始(宮古市)
- 宮古盛岡横断道路が全線開通
- 釜石市の根浜海岸の砂浜が一般公開
- 4月 1日 陸前高田市の高田松原海水浴場の砂浜が一般開放
- 22日 道の駅「たのはた思惟の風」(田野畑村)グランドオープン
- 27日 いわて被災者支援センターが釜石市に開所 13
- 5月 1日 陸前高田市の震災遺構「旧気仙中学校」「旧道の駅高田松原タビック45」一般公開開始
- 18日 復興庁岩手復興局が釜石市に移転
- 6月16～18日 東京2020オリンピック聖火リレーが岩手県内で開催 14
- 7月 1日 岩手県立野外活動センター(ひろたハマラインパーク)が陸前高田市に開所
- 10日 復興道路「三陸沿岸道路(田野畑南～尾肝要)」供用開始(田野畑村)
- 9月 1日 大槌町浪板海岸の砂浜再生工事が完了
- 21日 東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)が来場者40万人達成
- 22日 東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)が開館2周年
- 25日 道の駅「青の国ふだい」(普代村)グランドオープン

- 10月 24日 三陸国際ガストロノミー会議2021「食」のキャラバン開催
- 11月6・7日 「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2021」開催
- 14日 釜石鶴住居復興スタジアム「いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント」開催
- 12月 18日 復興道路「三陸沿岸道路(普代～久慈)」供用開始(久慈市・野田村・普代村)
- 三陸沿岸道路が全線開通 15
- 26日 高田松原津波復興記念公園が全面オープン

2022

- 2月 8日 「いわての復興教育」絵本『とてをつないで』発表
- 3月 11日 東日本大震災津波 岩手県・大槌町合同追悼式開催
- 4月 1日 宮古港の出崎地区に「しおかぜ公園」がオープン
- 6月 30日 主要地方道大船渡綾里三陸線赤崎工区開通
- 7月 9日 第73回全国植樹祭1年前記念イベント開催
- 18日 宮古市遊覧船「宮古うみねこ丸」運行開始 16
- 8月 27日 「いわて復興道路フェスタ～岩手がもっと、近くなる～」開催
- 9月 12日 東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)が来館者数60万人達成
- 25日 東日本大震災津波伝承館開館3周年・震災語り部等ガイドサミット開催
- 11月 5日 陸前高田市立博物館11年7カ月ぶりに開館
- 7日 令和4年度防災・伝承セミナーin岩手開催

2023

- 2月 24日 「いわての復興教育」絵本『みんながいるから』発表
- 3月 11日 東日本大震災津波 岩手県・釜石市合同追悼式開催

■ 岩手県で49年ぶり2回目の開催！

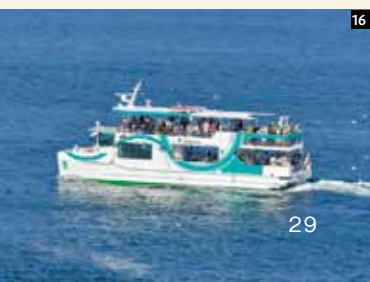
全国植樹祭は、森林・緑に対する国民の理解を深めるために、公益社団法人国土緑化推進機構と都道府県の共催で開催している行事です。式典では、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国から多数の参加者を迎え、記念植樹等を行います。

東日本大震災津波で大きな被害を受けた本県にとって、全国植樹祭の開催は、国内外からの支援に対する感謝の気持ちとともに、震災から復興する姿を発信する機会となるものであり、本県ならではの特色ある有意義な大会にしていきます。

49年前の第25回全国植樹祭(岩手県県民の森(八幡平市))で植樹された木は順調に成長しています。



天皇皇后両陛下がお手植えしたナンブアカマツとオオヤマザクラ



あたりまえなど無い 全カゴ助けてくれた方 自衛隊の皆様にも 生きてくれて ありがとうございます 毎日思ひ朝です
 感謝を忘れない! みんなに感謝の時 感謝しかありません 復興はまだまだですが 頑張ります。 S.H.R.M

生きてる今の自分に つはがる人に感謝!! 今日を明日に 明日を大層に生きてます 皆のお助けです ありがとうございます

確実に一歩一歩前へ進んでいる。 あの日を決して忘れてはならない。 #iiitate #三陸復興 多くの人に見てほしい。 たくさんの人に感謝です。

世界の皆さんからの 支援で助けられました。 感謝! Thank you! いつまでも忘れません 助けていただいたこと、 被災したこと。

全国の御支援があった からこそ、今元気に 日々仕事に励んでいます。 感謝の気持ちを込めて ありがとうございます。 あの海も忘れられない。 そして、生かされたおたちに 支援くださった皆様の思いも 忘れたい。 ありがとう♡

たくさんの人に支え られ、無事成人を迎えられ ました。 感謝です!!

ご支援 ありがとうございます。 元氣なお返りです。



津波から助けた私達を 暖かく受け入れて下さった方々 炊き出しを差し入れて下さった方々 一生忘れません!!

実際に被災した者です。 あの時に全国からの支援は 本当にありがとうございました。

あの月がきっかけで DMATにハマりました。 未来を信じて

復興支援ありがとう

出典：伝承館のデジタルメッセージボードに寄せられた内容、沿岸地域にお住まいの方々からいただいたメッセージ

岩手県へのアクセス

新幹線 盛岡駅まで

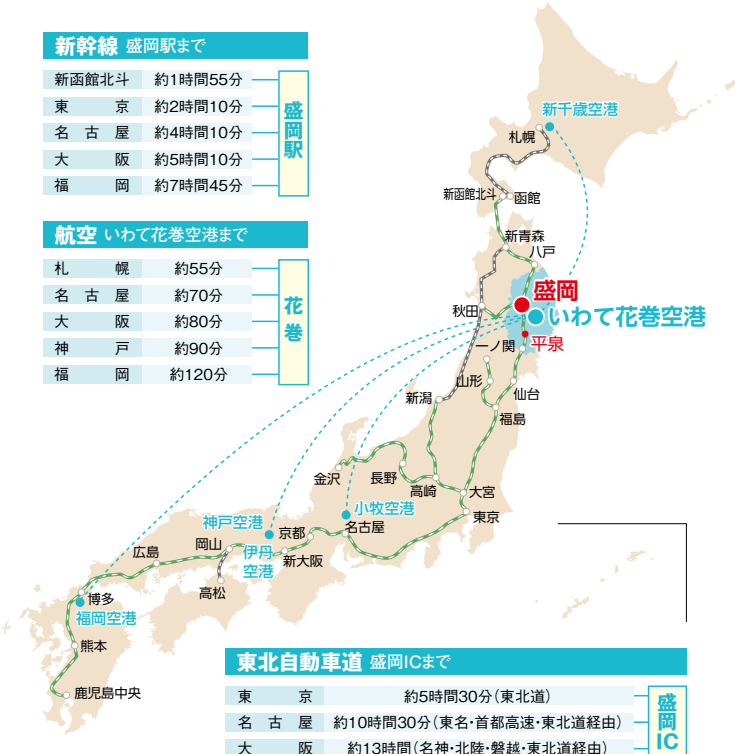
新函館北斗	約1時間55分	盛岡駅
東京	約2時間10分	
名古屋	約4時間10分	
大阪	約5時間10分	
福岡	約7時間45分	

航空 いわて花巻空港まで

札幌	約55分	花巻
名古屋	約70分	
大阪	約80分	
神戸	約90分	
福岡	約120分	

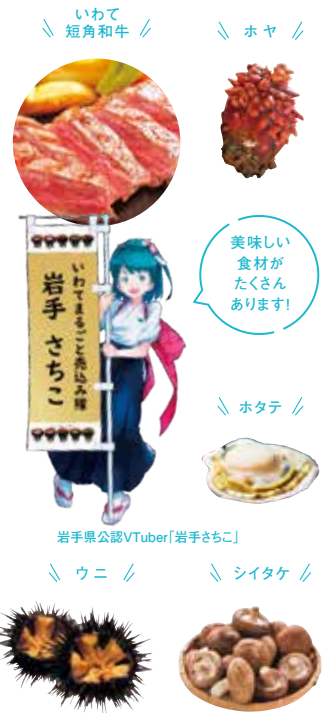
東北自動車道 盛岡ICまで

東京	約5時間30分(東北道)	盛岡IC
名古屋	約10時間30分(東名・首都高速・東北道経由)	
大阪	約13時間(名神・北陸・磐越・東北道経由)	



いわて三陸の紹介

三陸エリアは、様々な観光地や新鮮な食材を一年を通じて楽しむことができます。



写真提供 | 岩手県建設業協会/岩手日報社/大槌町/大船渡市/釜石市/久慈市/三陸鉄道/JR東日本盛岡支社/田野畑村/東北地方整備局/野田村/野田村観光協会/宮古市/山田町/陸前高田市(五十音順・敬称略)

令和5年5月発行 | 企画・発行 岩手県 | 〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号

編集 川嶋印刷株式会社 【本冊子に掲載している写真・図表の転載・複製は固く禁じます】